

関西広域連合協議会 医療・福祉分科会の議事概要について

- 1 日 時 平成27年1月19日(木) 14:00~15:45
- 2 場 所 関西広域連合本部事務局大会議室
- 3 出席者 (委員)
秋山会長、井端委員、高杉委員、成川委員、室崎委員、
安田委員、森垣委員、根来委員代理
(本部事務局)
中塚局長、古川次長、村上次長、早田企画課長、立石計画課長、
笠井国出先機関対策PT課長
(広域医療局)
山本次長、田中医療政策課長、春木医療戦略課長

4 議 事

(1) 関西広域連合の取組等について

①事務局説明

- ・「広域医療の取組について」

【広域医療局医療戦略課長】

②意見交換

委員からの主な意見

- ドクターヘリの成果は評価しているが、費用面に課題がある。
- 病床機能報告制度による都道府県での地域医療構想の策定において、府県境については関西広域連合での策定を検討する必要があるのではないか。
- 県境における医療の提供の問題については奈良県の加入が課題。
- 包括ケアについて特に過疎地域では市町村の施策への支援が必要。
- 災害医療コーディネーターについては単なる研修だけでなく実践的な訓練が必要。
- 包括ケアについては人口減少地域や府県境への支援が必要。
- 認知症等による徘徊等への対応も県域を越えた共通した取り組みが必要ではないか。
- 関西広域連合が臓器移植に取り組むことは屋上屋を重ねるようなことにならないか。
- 臓器移植についての正しい知識の普及を広域連合として取り組んでいただけたらと思う。
- 南海トラフ地震発生時にドクターヘリや、医療コーディネーター等の医療資源が足りなかった場合の対応を考えておくべき。

- 災害時にはコンビニだけでなくドラッグストアとも連携を。
- 災害時への対応のため、医療行為のできる船舶の設置も検討してはどうか。
- 医療行政や医療現場と、企業との情報共有をより進めていく必要がある。
- 災害現場において使用されている紙のトリアージタグに代わり、IC タグを使った傷病者情報集約ツールの導入を。